



## 四国の遍路道

私の家の前には、遍路道が通っています。この道は、第22番札所・平等寺に通じる山越えの細い道です。1人で歩く人、数人で歩く人、時には数十人で鈴を鳴らしながら楽しそうに歩くグループなど、多様なお遍路さんを見て育ちました。私の家の近くには、近畿大学の歌一洋教授が取り組んでいる「四国八十八ヶ所へンロ小屋プロジェクト」によるヘンロ小屋もあり、地域をあげてお遍路さんをもてなしています。



阿瀬比町 前田 敏武さん

四国には心のやさしい人が多いなあと感じ、うれしかったのを覚えています。こうした体験から、私も道を尋ねられたり、間違った道を行くお遍路さんを見かけたりすると、道しるべのある所まで案内してあげるようにしています。特に日の暮れるのが早い冬場、平等寺への山越えは危険だと判断した場合は、車で送ってあげることもあります。また、私

の後は倒木で道が通れなくなることもあるので、片付けに行ったりもします。今年、弘法大師・空海が四国霊場八十八ヶ所を開創して、1200年になるそうです。

これからも、遍路道をと人との絆を深める道として大切にしたいと思っています。

次は、橘町の仁井信子さんをお願いします。

## 市民文芸

### 短歌

阿南市春季短歌大会選

#### 市長賞

一枚の鏡にふたつの貌写し夫と息子が髭を剃っており

#### 大会賞

草刈りて腰を下ろせば遙か西一両列車が昼餉を告ぐる

#### 文化振興賞

一人暮日露戦役に逝きし祖の彫りの深きを春陽に洗う

#### 互選賞

採算のこと思ふなと春耕にトラクターより吐く息荒し

#### 互選賞

花冷えの句座の斜めに君がいて老いの恋情撥りていつ

#### 入選

花束を抱え走りこむエレベーターシューズの紐がずつと気になる

#### 入選

丘の上に靡きいるのは軍旗らし児ら去にし後をひとりなびける

#### 中学生短歌のポスト入選歌

薄紅が緑に変わりゆく季節新しき我を開花させたい

上田 彩未  
新緑のまぶしい日差し軽やかに  
お遍路さんの歩みが進む

原 百合愛  
今ここに受験という名の大舞台  
今日も明日も自分を見つめて

岩佐 旺樹  
あぜ道を日課のさんぽ愛犬と  
ゆれるしつぽに心もおどる

兼任 将貴  
春風にゆられて落ちる花びらは  
まるでピンクの雨粒のよう

一字 清夏  
タンポポの綿毛がふわふわ飛  
んでいく一体どこへ行くのだ  
ろうか

森崎 若菜  
花びらがヒラヒラと舞い彩づく  
街ピンクに染まるいつもの  
道が

鶴羽 綾香  
こんにちは竹の子によきつと  
出て来たね季節が春にかわり  
ましたよ

### 俳句

阿南市俳句連合会選

久米 浩一  
椎の木のマシユマロのごと山  
若葉

庄野 年美  
聖五月ランドセル背に馴染み  
初む

松田 桜子  
薫風をまとひ機上の人となる  
田口恵美子

佐野 峯子  
肌撫づる風に色あり衣更え  
大奥にまがう絢爛牡丹寺

笹田 智睦  
衣更え糸くずつけてバスにのり  
たんぽぽを避けて歩むよ赤い  
靴

萩原 陽子  
一ページふうわりめくる夏の風  
庄野 早苗

山川 喜美  
こいのぼりかんどり船は出番  
待つ

若葉風さつと抜けたる個室か  
な

### 川柳

阿南川柳会高木旬笑選

西田 修身  
足腰も頭脳も賞味期限切れ  
佐藤つたえ

何のその固く閉じても開く財  
布

臣守 愛香  
日々楽し気を持ち方で明と暗  
滝川 太郎

湯浅 三子  
雑踏にもまれて肩の丸くなる  
気の弱い男に強い嫁がくる